

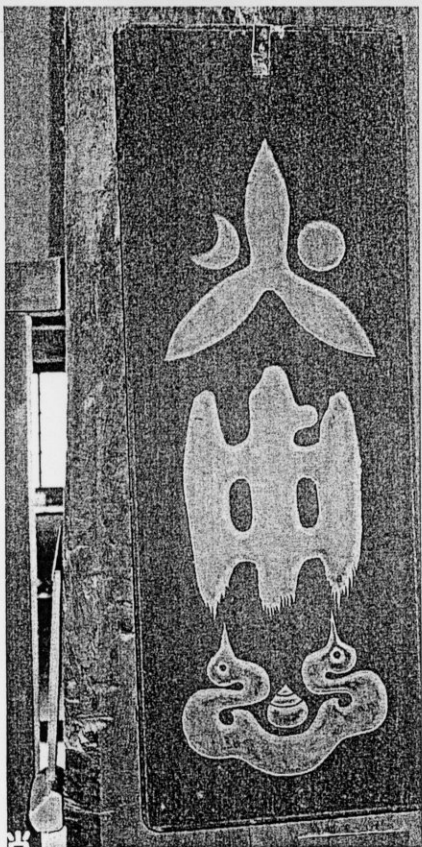


写真3 瑞巖寺庫裏に掛かるお札

写真1は木製の札で縦90cm横29cmあります。文字はこれで「火用心」と読みます。

このお札は石狩場所請負人だった村山家に伝えられ、平成11年市に寄贈されたものです。しかし、この資料については詳しいことが不明で、寄贈後の調査でもその経歴についてはまったく不明でした。ところが、昨年9月テレビを見ていたら偶然、お札と同じ文字が入った錦絵が放映され、テレビ局に問い合わせたところそれは江戸時代の防火錦絵であることがわかりました。さらに調べてゆくと、寄贈されたお札と同じものが宮城県松島町瑞巖寺にあることが明らかになりました。そのため昨年の暮れ、松島瑞巖寺へ調査に行ってきました。瑞巖寺には村山家のお札と同じ札が3枚ありました。お寺の

歴史では、このお札は最初、伊達政宗の命令で瑞巖寺落成の前年、慶長13年(1608)に火災除けのため静岡の

火の用心のお札

あきばさん
秋葉山からもらって来たと言えられています。現存するお札で年代が明らかなものは、江戸末期で、お寺では定期的に秋葉山からお札を受けていたようです。これらのことから石狩市に寄贈されたお札は、瑞巖寺と同じく秋葉山から授けられた由緒あるものであることが推測されます。ただ、残念なことに秋葉山ではこのようなお札が当時発行されていたかどうか記録されていないようで、今後さらに調査が必要です。

「江戸の華は火事と喧嘩」といわれたようですが、同時に江戸時代は防火意識も高まっていたようです。おそらく、このお札はまじない的な護符の意味と視覚に訴えて注意を呼び起こし、人の心をいましめる役目をもっていたと思われます。

なお、このお札の複製は本町の運上家ホールにも展示されていますので機会があったらごらんください。

(石橋孝夫)

写真1 村山家のお札

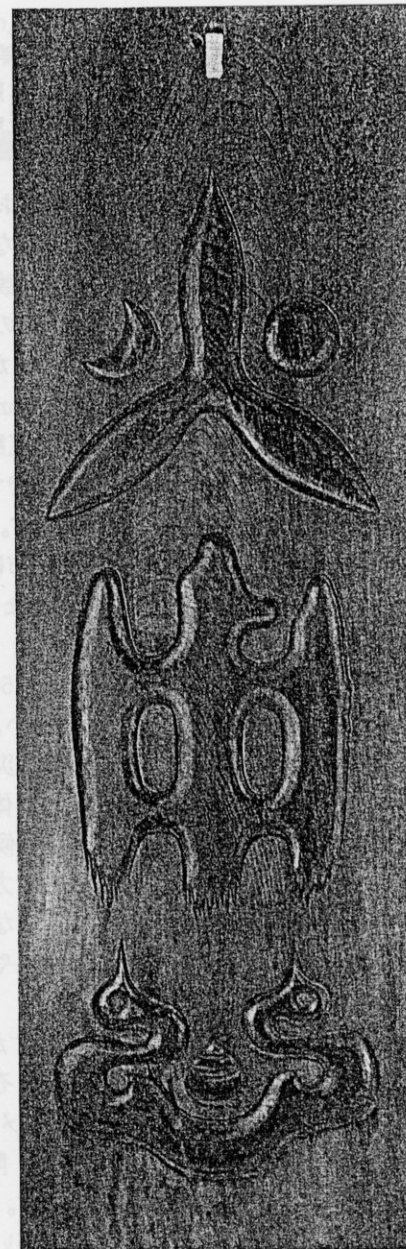
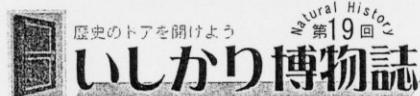


写真4 瑞巖寺庫裏全景



■文化財・博物館開設準備室
☎0133-72-6123

e-mail: bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp



写真2 放映された錦絵(東京都立中央図書館蔵)